

クマタカを指標とした国有林野の管理手法の考察
 ～赤谷プロジェクトにおける生物多様性の保全と森林資源の循環利用の両立に向けて～

公益財団法人日本自然保護協会 生物多様性保全室 出島 誠一
 関東森林管理局 静岡森林管理署 一般職員 都築 高志
 (元 計画保全部計画課)

1 課題を取り上げた背景

林野庁、地域住民、自然保護団体の協働による『赤谷プロジェクト』は、群馬県みなかみ町の1万 ha の国有林を舞台に、生物多様性の復元と持続的な地域づくりを目指しています。このため、持続的な地域づくりに資するよう、生物多様性の保全に配慮しながら、森林資源の循環利用を推進していくことが重要な課題となっています。



【茂倉沢の風景】



【クマタカ(成鳥)】

赤谷プロジェクトエリアの茂倉沢では、利用が進んでいない人工林が多く存在する一方、大型猛禽類であるクマタカの生息が確認されており、赤谷プロジェクトの関係者による継続した調査が行われてきました。森林生態系のアンブレラ種であるクマタカが安定的に子育てできる森林は、生物多様性が豊かな環境であると考えられます。

生物多様性の保全と森林資源の循環利用を両立させるための手法を明らかにするため、クマタカを指標とした森林管理の方向性等について、詳細に検討しました。

2 具体的な取組

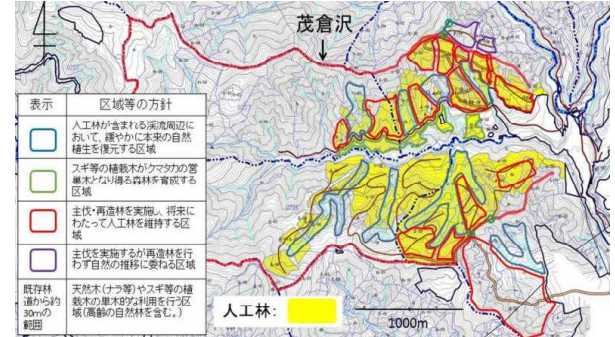
クマタカは全国に広く分布する森林性の猛禽類であり、成熟した大径の樹木に営巣し、高齢の天然林など空間が確保された森林等で狩りを行います。うっ閉した人工林や若齢木が混み合った天然林では森林内に入っていくことができず、狩りを行うことができません。また、夏に巣立った幼鳥は翌年の2月頃まで営巣木の近くに留まり、親鳥に

獲物をもらいながら、自ら狩りができる能力を獲得していきます。

このようなクマタカの生態に注目して、クマタカの生息環境を維持・向上させつつ、森林資源の循環利用を進めるため、猛禽類の専門家、自然保護団体、地域住民等と協働して詳細な検討を行い、茂倉沢の今後の森林管理や森林施業に係る計画案を作成しました。

3 検討の結果

既知の営巣木の特徴や生育している場所、幼鳥等の行動に関するこれまでの調査結果と森林資源の循環利用を推進する観点等に注目して検討を行った結果、①営巣木と同標高付近



【茂倉沢のゾーニングの様子】

の人工林では、スギ等の植栽木がクマタカの営巣が可能となる大木に成長するよう積極的に間伐等を実施するとともに、高齢の天然林を適切に保全しクマタカの営巣が可能な場所の拡大を図る、②営巣木の周辺や溪流周辺の人工林では、積極的に間伐等を実施し、クマタカの営巣が可能となる場所の拡大を図るとともに、幼鳥が狩りを行いやすい森林環境を創出する、③主伐・再造林による人工林資源の循環利用を進め、幼鳥等の狩り場を創出する、④地元の工芸品であるカスタネット製造に必要な広葉樹天然木の需要に対して、既存林道沿いのナラ等の天然木を単木的に伐採し供給することにより、クマタカの狩り場となっている林道(林縁部)を適切に管理すること等を内容とする、今後の森林施業等に係る具体的な計画案を作成することができました。

4 まとめ

今回の検討の結果、クマタカを指標とした場合の生物多様性の保全と森林資源の循環利用を両立させる1つの具体的な手法を提示できたことから、他の国有林においても、これを参考として、より質の高い国有林野の管理経営を目指すことができるものと考えます。

今後とも、赤谷プロジェクトの成果については、他地域への普及を念頭に置き、積極的に情報発信していきます。